

**原子力システム研究開発事業
事後評価総合所見**

<p>研究課題名：加速器駆動未臨界システムによる核変換サイクルの工学的課題解決に向けた研究開発</p> <p>研究代表者（研究機関名）：辻本 和文（日本原子力研究開発機構）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：中島 健（京都大学）</p> <p>研究期間及び研究費：平成25年度～平成29年度（5年計画）＊1年繰越 195百万円</p>					
項目	要 約				
1. 研究の概要	<p>高レベル放射性廃棄物中のマイナーアクチノイド（MA）を分離・回収し、短寿命核種あるいは安定核種に変換する分離変換技術として、発電用核燃料サイクルとは別に小規模の核変換専用サイクルを設けて、加速器駆動核変換システム（ADS）によりMAの核変換を行うADS階層型概念について、各構成要素の研究開発段階を「基礎研究」から「準工学研究」へ移行するための工学的見通しを得るための研究開発を実施し、それぞれでボトルネックとなる重要課題に対する技術的見込みを得ることを目的とし、以下の研究開発を行う。</p> <p style="margin-left: 40px;">1) ADS用MA分離回収技術の開発</p> <p style="margin-left: 40px;">2) 加速器駆動未臨界システムの開発</p>				
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50px;">A</td> <td>ADSを実現するために、基礎研究から準工学研究に移行する上で必要な知見が得られている。また、実廃液による実験により、g単位ではあるが、アメリシウム（Am）を回収できたことは評価できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td> <p>S) 極めて優れた成果があげられている</p> <p>A) 優れた成果があげられている</p> <p>B) 一部を除き、相応の成果があげられている</p> <p>C) 部分的な成果に留まっている</p> <p>D) 成果がほとんどあげられていない</p> </td> </tr> </table>	A	ADSを実現するために、基礎研究から準工学研究に移行する上で必要な知見が得られている。また、実廃液による実験により、g単位ではあるが、アメリシウム（Am）を回収できたことは評価できる。		<p>S) 極めて優れた成果があげられている</p> <p>A) 優れた成果があげられている</p> <p>B) 一部を除き、相応の成果があげられている</p> <p>C) 部分的な成果に留まっている</p> <p>D) 成果がほとんどあげられていない</p>
A	ADSを実現するために、基礎研究から準工学研究に移行する上で必要な知見が得られている。また、実廃液による実験により、g単位ではあるが、アメリシウム（Am）を回収できたことは評価できる。				
	<p>S) 極めて優れた成果があげられている</p> <p>A) 優れた成果があげられている</p> <p>B) 一部を除き、相応の成果があげられている</p> <p>C) 部分的な成果に留まっている</p> <p>D) 成果がほとんどあげられていない</p>				